

# APP 環境新聞

発行日 2024年3月29日

発行者 エイピーピー・ジャパン株式会社 (APP ジャパン)  
ユニバーサル・ペーパー株式会社 (UP)



APPは持続可能な開発目標  
(SDGs)を支援しています。



## 森の再生プロジェクト ~いっしょにSDGsに取り組もう!~ 活動報告<8>

エイピーピー・ジャパン株式会社(以下、APPジャパン)とユニバーサル・ペーパー株式会社(以下、UP)は、売上の一部をベランタラ環境保護基金に寄付して、インドネシアで『森の再生プロジェクト~いっしょにSDGsに取り組もう!~』(以下、森P)を行い、現地の貧困に起因する焼き畑がもたらす森林減少という課題解決に取り組んでいます。

2023年はエルニーニョ現象の発生により例年より乾燥が激しかったため、2~9月の間は植樹を見送ることにして、10~12月の3ヶ月に集中して植樹を行いました。その結果、25haに12,510本の苗を植えることができました。2020年8月以来の累計としては94ha、43,901本の植樹実績となりました。

今回の植樹にあたっては、今後の活動継続に向けて不可欠なインフラ整備も同時に行いました。最初に、活動場所であるスルタン・シャリフ・ハシム大森林公園(以下、SSH)管理事務所近くで放置されていた苗床の再整備を10月に行いました。苗床が整備されることで、SSH内で採取した種や苗木に日光や水をたっぷり供給して丈夫に育てることができま



小屋を建てている様子

さらに、管理事務所から遠い実際の植樹エリアに2棟目となる小屋を建てました。小屋は、数ヶ月に渡る周辺での植樹活動の基地としてスタッフの休憩所となるだけでなく、近隣で焼き畑やパーム植林を行う地域コミュニティに対して、SSH管理事務所がこのエリアの森林再生活動に着手する意思を示すことで、違法行為を抑制する意味も持ち合わせます。(次号報告に続く)

### 『日経ESG』でも森Pの進捗が紹介されました

森Pに関するこの1年間の進捗について、『日経ESG』2024年4月号に紹介記事が掲載されました。森P開始の背景、現地における森林荒廃の実態、日本の学生による現地訪問の様子などが紹介されています。記事は[こちら](#)よりご覧いただけます。

## 能登半島地震 お見舞い申し上げます

2024年1月1日に発生した能登半島地震によりお亡くなりになられた方々に謹んでお悔やみ申し上げますと共に、被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。

APPジャパンは日本赤十字社を通じて義援金500万円を寄付させていただき、UPはお客様からの要請に応じてトラックの空きスペースを有効活用すべくトイレ紙90箱を寄付させていただきました。

皆様が1日も早く日常生活を取り戻されることを心よりお祈り申し上げます。

## CDP2023 評価で リーダーシップレベル



APPは、英国を拠点とする環境情報開示のNPOであるCDPの2023年スコアにおいて、気候変動A-、森林A-、水セキュリティBの評価を獲得しました。

今回、気候変動と森林のカテゴリーにおいて、昨年のBからA-へとリーダーシップレベルに昇格しました。このレベルは環境問題の管理においてベストプラクティスを行っている事を示します。水セキュリティの評価においても、アジア地域及び業界平均スコアであるCを上回りました。

企業の環境保護活動評価に関する世界標準となったCDPによる高評価を糧にして、今後も取り組みの改善を目指します。

## ここにも「森の再生プロジェクト」ロゴ

UPとお客様のコラボ商品に続々とロゴが登場しています!

ドラッグストアのTomod's様が、30周年を記念してUPのハローティッシュとのコラボ商品を1月に発売しました。日頃からお客様と接している店舗従業員の方々へのアンケート調査から生み出されたデザインは、ミッドナイトブルーとアイボリーの2種類をご用意。部屋に飾っても楽しめる素敵なデザインになっています。

また、ドラッグモリ様の40周年を記念して発売されたハローティッシュは、「+50組増量」でお得な記念パックになっています。

どちらも「森P」ロゴが掲載されているので、店舗で見かけた際には、ぜひお手に取ってみてください。



Tomod's様×ハロー 限定デザイン



ドラッグモリ様×ハロー 限定デザイン

## 学校教育と企業が連携する 2023年度海外フィールドワーク研究発表・実施報告

筑波大学附属坂戸高等学校（以下、筑坂高校）において第27回総合学科研究大会が開催された2024年2月10日、APPジャパンは、分科会『企業・大学と連携した海外フィールドワークの開発』に招聘され、実施報告を行いました。

本大会は、総合学科高校が日本の高等学校教育改革に果たす役割をテーマに、基調講演や公開授業、生徒活動ポスターセッションなどのプログラムが行われ、全国から高等学校教員および教育関係機関の多数の参加がありました。

筑坂高校では、高大接続科目として筑波大学と連携したインドネシアにおける海外フィールドワーク「国際農業研修」が昨年夏から実施されています。当社はAPP本社と共に現地における探究型海外研修をコーディネート参画しており、そのプロセス報告を行いました。

参加した高校生よりインドネシア研修体験における成果発表も行われ、森Pの記念植樹を通じてインドネシアの社会課題をグローバル視点から捉え、大学進学においても森林開発課題や農業支援に関わる進路選択のきっかけとなったことなどが力強く語られました。また、帰国後にエコプロ2023における当社ブース内で生徒の皆さんが研究発表を行う機会があったことの意義にも触れられ、今後の学校教育現場と企業連携の可能性について、社会課題を「自分ごと」にする重要性へと、先生方の発展的な意見交換も行われました。



(上)  
フィールドワークの参加体験から森Pを解説する生徒さん



(下)  
分科会の様子

### APP工場 太陽光パネル導入

APPインドネシアのチウィ・キミア工場では、2023年に創立53年を迎え、屋上に設置されたソーラーパネルの稼働を開始しました。最大発電電力は9.8MW、その総面積は11.4haになります。この導入により、年間最大12,400トンのCO2排出量を削減する見込みとなっています。

また、APP中国の寧波工場では、2024年7月開始を目標に15MWのソーラーパネルを設置するプロジェクトが進められており、稼働すればCO2排出量7,739トンの削減が見込まれています。

既に導入済みの金東工場では、2013年からプロジェクトを開始し、2017年までに30MWのパネルを設置され、現在さらに増



金東工場のソーラーパネル

設が計画されています。最終目標達成時には、CO2排出量28,515トンの削減が見込まれています。

APPは、引き続き脱炭素に向けて取り組んでいきます。

### 自然林再生支援を発表 アスクル様

アスクル株式会社（以下、アスクル）様は、2024年2月に発刊したカタログにおいて、今年からインドネシアで自然林再生活動を始めることを発表しました。

これは、アスクルオリジナルコピー用紙のメイン調達元であるインドネシアが抱える森林減少問題や、SDGsへの貢献を目的としてベランターラ基金が行う森林再生活動にアスクル様が直接寄付をするものです。2024年から活動を開始予定で、2年間で100haの荒廃林に自生種の苗を50,000本植える目標を立てています。

また、同社が2010年から実施してきた「1box for 2trees」（インドネシア製コピー用紙 A4、1箱＝植林木1本分の販売に対し、原材料の2倍にあたる2本の植林を現地で行う）プロジェクトも、先日ソフトバンクグループ「SDGsアクションアワード2023」の大賞を受賞しました。

お客様がインドネシアにおける取り組みを推進し、高い評価を獲得されたことは、APPにとっても喜ばしいニュースとなりました。

[https://www.softbank.jp/sbnews/entry/20240313\\_01](https://www.softbank.jp/sbnews/entry/20240313_01)



### 「APPはこう考える」～再生紙とバージンパルプ紙③～

古紙パルプとバージンパルプの循環で成り立っている紙素材。製紙メーカーとしては、バージンパルプをいかに持続可能な方法で調達するかが求められています。

APPは、その課題に「森のサイクル」で応えています。品種改良したユーカリやアカシアは、熱帯地域のインドネシアに植えると、5年間で25mの高さに成長し、収穫されます。

APPは、インドネシアに約260万ha（関東地方320万haの8割に相当）の森林を管理し、その半分以上を植林地として運営しています。その広い植林地を5つの区画に分けて毎年1区画ずつ植えることで、半永久的に必要な木材が調達できます。ちなみに、管理している森林の残りの半分は、自然林として、または地域コミュニティが主に農業等を行うソーシャルフォレストとして保全しています。

### 中学生向け企業訪問プログラムを実施

2024年1月19日、川崎市立玉川中学校からAPPジャパン/UPの当社に5名の生徒を迎えました。

昨年5月に愛知県の中学校生徒を初めて迎えてから、今回で4校目となります。当社の説明やSDGs達成に向けた取り組みの説明を行い、森Pステッカーや対象製品を渡して記念撮影を行いました。

後日、生徒の皆様からのお礼の手紙が届き、「環境に優しい製品を選んで買うことで、一人で環境問題に貢献できることを学んだ」と感想が寄せられました。引き続き、学生の皆様にとって学びとなるプログラムを実施できるように努めてまいります。



記念撮影の様子



### 森の再生プロジェクト 参加方法

1. 「森の再生プロジェクト」の対象製品を購入する
2. 個人・法人等で寄付をお考えの方  
→ APPジャパンにご連絡ください (sustainability@appj.co.jp)

### APP 環境新聞バックナンバー

こちらよりご覧いただけます

<http://www.app-j.com/topics/1673.html>